

Jump Rope

世界大会に出場して

松村直輝（津市立橋北中学校）



World Jump Championships 結果
チームフリースタイル 五位
ペアフリースタイル 六位
スピードリレー 六位
30秒スピード 五位
7月16～23日

ALL JAPAN INDIVIDUAL（全日本）
三分スピード 二位
12月9日

アメリカで僕自身初めて現地での世界大会に出場しました。今までコロナのためオンラインでの国際大会には出場してきましたが、またそれとは違った緊張感がありました。一番大変だったのは大会自体が10日近くあったことです。上位六名で行われる決勝はすべて最後の2日間で行われるので、大会中常に気が張り詰めていました。なれない食事に飛び交う英語、長時間の移動で体調不良者も続出しました。大会はコロラド州という標高がかなり高い場所で行われました。競技の縄跳びはものすごく繊細です。空気抵抗が小さい分、縄が速く回りますが、技によっては故意に遅く回さなければならないところもあり、その調整がかなり難しかったです。また、単純に酸素が薄いので競技直後には酸素ボンベが支給されました。大会の途中から救急車が待機し始めたのはびっくりしました。

大会は、一通り行われ順位が1位までつけられたあとに、再度六位以上でやり直すというものでした。個人戦で決勝まで行くのは厳しいなと思っていたのですが、団体、個人ともに突破することができました。とりあえず一安心、という気持ちでいっぱいでした。団体の決勝は実力がそのまま出たなという感じでした。ミスするところではミスをするし、ちゃんと決めるところは決められました。ですがやはり根本的な実力が不足しているなと個人戦もですが思いました。個人戦は結果こそよくなかったものの、今までの縄人生で一番良い瞬間でした。二重跳びとか、はやぶさとかで苦戦していた僕がああ場に立てたという感動は今でも思い出せます。

この10日間はすべてが特別でした。競技が終わったあと号泣している選手を何度も見かけました。その度にその選手が背負ってきたものの重さを感じました。どんなに技術のある選手でも本番でミスをすればそれが結果になります。各国のトップ選手は、本番で高いパフォーマンスを出す調整力を持っていました。僕も練習を重ね、考え続けることでそれに近づけるように頑張ります。